

ユニット名：いちい/けやき共通

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関先及びユニットフロアに掲示しており、ユニット会議の時には全員で唱和をしている。	「たのしい、日々の暮らしを支援します」の理念は玄関、各ユニットフロアに掲示している。ユニット会議で唱和して、利用者が楽しい日々が送れる様に優しく寄り添った支援に取り組んでいる。ケアマネージャーは、新入職員に理念に沿った仕事内容の説明をして、日々の業務に繋げている。また、家族には利用契約時に理念に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により、減っていた行事は徐々に再開している。まず手始めにボランティアの音楽療法を3ヶ月に1回、近所の幼稚園児との交流も始まったばかりである。	開設以来、自治会費を納めて地域に開かれ、親しまれる施設として活動している。コロナ禍で制約を受けながらの活動が続いていたが、昨年5月の新型コロナ5類への移行を受け、近隣の保育園との交流や音楽療法ボランティアの来訪等が再開された。これからは状況を見ながらコロナ前の活動に戻す予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	希望者があれば、利用者の散歩や外出を増やして、地域とのつながりを今後も断たない様に努力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を施設内で開催する様になった。施設の現在の状況をお伝えし、ご理解頂く機会としている。	コロナ蔓延中は別会場で開催していたが、今年4月以降は施設内で運営推進会議を開催している。利用者代表、家族代表、区長、自治会長、民生委員、大法寺住職、市職員、ホーム関係者が出席して、偶数月に開催し、利用者の状況、行事の計画・報告、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。また、リーダー、副リーダーが1名ずつ交代で運営推進会議に出席して、介護現場の生の声を聴いて頂き、助言を頂くことにより職員育成にも繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市役所とは密に連携をとっている。地域包括支援センターや保健福祉課とは職員教育やオレンジネットフレンズ（認知症の方を含めた認知症サポーターを中心としたボランティアグループ）との交流を通じ、情報を頂いている。	市の担当部署の職員に運営推進会議に出席して頂くと共に必要に応じて施設長が市役所を訪問し、「介護報酬変更等」様々な事項について連携を図って運営の向上に繋げている。また、2名の市介護サービス相談員が3ヶ月に1回、半日くらい来訪し、利用者や交流するとともに利用者の状況について口頭で報告があり、支援に役立っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、ケアマネージャーが対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議でのケア検討の時に折に触れ、身体拘束禁止について伝えている。	毎月のユニット会議の中でケアマネージャーが講師となり身体拘束、虐待防止の勉強会を1時間位行って拘束に対する知識を高め、拘束の無いケアに繋げている。帰宅願望が強い利用者は、家族の協力を得て、お盆や秋の連休に自宅で2～3泊することにより、落ち着きを取り戻した。現在は、職員が寄り添い話を聞いて対応している。また、転倒落下危険のある方は家族と相談の上、人感センサーを数名、センサーマットを若干名使用している。	

認知症グループホームたのしや駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護現場の常で、スタッフの入れ替わりも多い。虐待防止の研修は年間の研修で最低1回は必須となっており、行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回、運営推進委員会を開き、3ヶ月に一回だが、介護サービス相談員の訪問も再開されている。	面会は事前に連絡を頂き、抗原検査キット用いて陰性を確認の上施設内で2名、15分位行っている。ホームでの生活の様子は毎月発行している写真入り便り「たのしや駒ヶ根」に担当職員のコメントを添えて、家族に届けている。また、母の日や誕生日には「フラワーアレンジメント」等のプレゼントが家族より届けられている。合わせて誕生日には「バースデイクッキー」と担当職員のお祝いコメント入りのバースデーカードを贈り祝っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で、職員の意見を出しやすい雰囲気作りに努めていて、意見が運営に反映しやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を再開し、職員の意見を吸い上げる努力をしている。また65歳以下の職員を正社員に登用すべく努力している。65歳以上も自身の働き方にあった勤務時間 にできる様調整に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍から外部研修は減少しているが、今年は1名認知症管理者研修を受けてもらった。またケアマネに2名、介護福祉士には1名資格取得に挑戦をする予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で立ち上げた「認知症対応力向上委員会」(ケア者のカフェ)に参加していたが、コロナで中止となっている。同業の施設が閉鎖したりと状況は厳しいが、認知症研修に参加を促す予定。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れて頂くまで、家族にも協力をお願いし、集中して見守り&ケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を決めるまでの経緯と家族の本人への気持ちを受け止め、共有して、まず家族に安心してもらえる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と分かった時に、その都度本人や家族も含め話し合い、早めのサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の意思を尊重できるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に常に今の状態を知って頂くことで、家族の協力なしには認知症のケアが成り立たない事を知って頂くよう努めているが、現実には遠方にいたり、関係の薄い家族も増えていて、預けっぱなしが増えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達との食事外出、外泊の支援を積極的に働きかけている。	コロナ禍で家族以外の面会は少なくなったが、最近では友人、親戚の面会があり、歓談している。また、毎月1回家族とドライブに出掛ける方やお盆や連休には家に戻られる方もいる。そうした中、介護用品、洋服、お菓子等を希望される場合は家族に届けて頂いたり、許可を得て職員が買い物して渡している。美容師が3ヶ月に1回来訪しカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあえる様な関係ができるように、関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、退所されてからの経過を関係諸機関や家族に伺って、相談や支援に努めている。ただ転床の場合個人情報保護法により、詳細は教えて頂けない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を読み合わせる事によって、「その人を中心においたケア」とは何かを考えてもらっている。そうする事によって、ともすればこちら側の都合によるケアになりがちになるのを戒めている。	殆どの利用者が自分の意思を伝えられるが、意思表示が難しい若干名の利用者には問い掛けに対する表情や仕草より、思いを受け止めている。また、飲み物、洋服選び等で二者択一の提案も含めて希望に沿える様に努めている。日々の生活の中で気付いた事柄は介護記録に纏めて、情報を共有するとともに申し送り時に職員同士で確認し合っており、利用者の意向に沿える様な支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々人の事情によって違うが、馴染みの物を持ってきて頂いて、安心できる空間作りを心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランによって、ケアの方向性を決めているが、何かある度にその場にいる職員間だけでも、カンファレンスを開き、早めにその方にあった支援ができるように努めている。その後の情報の共有は連絡ノートでしている。	リーダーは数名、一般職員は若干名の利用者を担当し、家族への便りの作成、日々の状況把握、居室管理等を行っている。毎月のユニット会議でのカンファレンスで意見を出し合ってモニタリングを行い、面会時や電話で伺った家族の希望を加えてケアマネージャーがケアプラン作成している。入所時は家族からお聞きした情報を基に暫定で3カ月のプランを作成し、様子を見て最長1年の長期目標を作成している。状態に変化が見られる時には随時、見直しを行い、個々に合った支援に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に様子を記録し、変化がある場合は連絡ノートで情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人暮らしや家族が遠方の方も増え、その時々によって利用者のニーズも変わるので、柔軟な対応を心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるような支援に努めている。			

認知症グループホームたのしや駒ヶ根

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者18名中10名が90才以上で、トロミ付食が必要な人も3名おり、医療依存度も上がってきている。スムーズな医療連携の為に嘱託医に随時切り替えて貰っている。今2名のみ家族の希望で元々のかかりつけ医に通っている。緊急時は即家族に動いてもらう様にしている。	利用契約時にホームとして、医療連携の重要さと難しさを説明し、ホームに嘱託医を置いた事に対する理解をいただいている。現在は殆どの利用者がホーム嘱託医の毎月第1、第2月曜日の往診を受けている。若干名の利用者は月に1回家族の送迎で入所前からのかかりつけ医を受診している。また、各ユニットに常勤看護師もしくはパート看護師が在籍しており、午前、午後交代で健康管理に当たっている。また、毎週火曜日に訪問看護師が来訪して健康管理を行うとともに医師との連携により24時間対応の万全な医療体制が整えられている。歯科は必要に応じて訪問歯科医師の往診がある。毎月、歯科衛生士から口腔ケア指導も受けており、現在は数名の利用者が個人契約を結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(常勤1名,非常勤2名)は3人だが、利用者やその家族が安心して頂ける様に、月4回定期訪問の伊南訪問看護ステーションと連携して、利用者の日々の体調の変化に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、上伊那共通の情報提供書にケアマネが利用者の情報のみならず、施設の意向や今後についてを記入し、送っている。入院後は入退院時ケアカンファに出向き、退院できる場合施設内環境整備に努めている。年に1回総合病院で地域連絡協議会を開催してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合い時に、その都度事業所の方針と当施設の設備での限界を伝える一方で、できるだけ長く当事業所で暮らせるにはどうしたらいいかを話し合い、医療含め当施設の設備でできる範囲を理解して頂いている。	重度化、終末期に対する指針が有り、利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホーム関係者で話し合いの時を設けている。家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、ターミナル介護計画を作成して、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に若干名の看取りを行った。家族、親戚には居室で最期の時を共に過ごして頂き、感謝の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは入職後、消防署で救急救命講習を受講し、利用者の急変や事故に即対応できる人材を育成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と防災協定を結んでいる。不測の事態に備えボランティア保険にも入って頂いている。緊急連絡網の訓練を抜き打ち的に行い、職員の災害に対する意識付けを行っている。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を行っている。5月はユニット会議で消火器等防災機器の取り扱い訓練を行った。10月2日には水消火器を使っている消火訓練、利用者を玄関まで移動させての避難訓練や通報訓練、防災会社による防災設備の点検、緊急連絡網の確認訓練を兼ねた職員の非常招集訓練を予定している。「水」「おかゆ」等が3日分備蓄されている。なお、地域との防災協定も結ばれており、地域の緊急避難所にも指定されている。	

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いなど丁寧な対応を心がけている。	人生の先輩に対し尊敬の念を込めて優しく丁寧な言葉使いを心掛けている。トイレ介助の際には大きな声で誘わず、利用者の前では他の利用者の話しはしない様に気配りもしている。呼び方は希望をお聞きして苗字か名前を「さん」付けで呼びし、入室の際には「ノック」と「声掛」を忘れない様にプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。また、新入職員が入社した際には接遇研修を行ってプライバシー保護に対する意識を高める様に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物などを二者択一で選んでいただくなど、ご本人が自分で決定できるような働きかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援ができる様、一人ひとりの気持ちを伺うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに添えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に、という思いをもって、日々一緒にできる事を模索している。ただ利用者も高齢になり、共にできることが段々と狭まってきている。	ご自分で食事が出来る利用者が四分の三強、一部介助の方が数名の状況である。食形態は半数位の利用者が「おかゆ」接種の状況になっているが、「おかゆ」摂取が水分補給に繋がっている。献立は主菜1品、副菜2品で、朝食は職員が調理している。昼食は施設長が主菜1ヶ月分の食材を発注し、3名の調理職員が交代で調理している。夕食の1品は配食会社の食材を用い、副菜は職員が調理している。そうした中、開所式や敬老会には「お赤飯」、年越しには「年越しそば」、正月には「おせち料理」、お盆には「天ぷら」、土用の丑の日には「鰻」等季節の味も楽しんでいる。利用者は持っている力に合わせ「野菜の下処理」、「洗い物」、「テーブル拭き」等に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や栄養不足にならない様に看護師が常にチェックしている。献立と食事量を記録して、1日通して栄養がバランスよく摂取できるよう気をつけている。食事量が少なくなった時には栄養補助食品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをする時に、自立してる人には声かけをして、そうでない人には介助に入っている。また食前に口腔ケア体操を取り入れている。		

認知症グループホームたのしや駒ヶ根

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンを知り、誘導及び声かけをしている。紙おむつの量を減らす為のケアカンファレンスを度々行っている。	排泄は自立が若干名、一部介助が二分の一強、全介助が三分の一で紙パンツ使用の状況である。起床時、おやつ時、食事前、就寝前の定時の声掛けに合わせて、排泄表も参考に様子を見ながら早めに誘っている。排便は3日間無い場合はコントロールを行っている。お茶を中心に1日1000cc以上の水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をチェックし、個別に看護師が対応及び処置している。水分摂取量が少ない人には、スポーツ飲料、ヤクルト、ゼリー系等ありとあらゆる物を試している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	保清の意味でも、入浴は実施してほしいという職員の希望から、大方の入浴日は決まっているが、常に本人の希望を伺ってから実施する様にしている。リフト浴は週4日稼働している。	全利用者が何らかの介助が必要な状況であるが、基本的に週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方が若干名いるが、誘い方に工夫をして入浴に繋げている。檜の香りがする檜浴槽とリフト浴が設置された広い浴室が設けられ、利用者の状況に応じて使い分けている。入浴剤使用に合わせ冬場には「ゆず湯」も楽しんでいる。また、入浴後には「スポーツドリンク」等で水分補給にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもひとりでくつろぎたい人や午睡をしたい人には無理して起きてもらう事はせず、個々人のペースに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	R3年より一ヶ所の処方箋薬局に当施設利用者の薬の保管及び管理をお願いしている。薬の変更やそれに伴う症状の変化等お互いに共有して、嘱託医に繋げる等、医療連携が強化されている。定期往診時の結果を薬局にもFaxし、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ支援をこころがけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的な感染対策を条件に外出を促している。ただし、コロナ感染は無くなっていないので、十分に注意して貰っている。	利用者は自力が若干名、シルバーカー使用が数名、歩行器使用三分の一弱、車いす使用が二分の一強の状況である。施設周辺が坂道になっているので、いずれの利用者も1対1の個別対応になる。それでも一人でも多く楽しんでいただけるように、気候が良く、天気の良い時にはホームの周りを散歩したり、広いベランダに出て外気浴や保育園児と交流の場を設けている。また、春や秋にはドライブを兼ねた花見等に出掛けている。今後は、コロナの状況を見ながら、施設長が少人数毎のドライブ外出を計画している。	

認知症グループホームたのしや駒ヶ根

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内で個々人の小遣いを預かっており、個別の買い物支援している。収支は毎月家族に書面で報告している。自分で管理を希望される方は、当事者と家族の責任の元自分で所持している方もいたが、現在はそういう方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者にはできるだけの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、風を取り入れたり、日差しの調整をして、心地よく過ごせるように工夫している。	広々としたホール兼食堂は天井も高く開放感漂う空間となっている。大きな窓から外に出ると大きなウッドデッキが設けられ、外気浴や保育園児と交流する寛ぎの場となっている。また、キッチンからホール全体を見渡せる造りとなっており、安全確保の配慮もなされている。壁には利用者の作品や季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が一つしかないのが欠点だが、極力個々人が嫌な思いをしないような居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族と相談して、その時々状況に応じて馴染みのもの、好みのものを持ってきて頂いている。	掃除が行き届き清潔感漂う居室は、大きなクローゼットが完備されており、整理整頓がし易い造りとなっている。持ち込み物は自由で、家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、テーブル、テレビ等が持ち込まれている。家族の写真や職員から贈られたバースデイカード等に囲まれ自由な生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	セーフティアームや車いす対応の方が増えてきており、介助が必要、見守りのみなど状態に合わせて、利用者の行動が制限されない様にサポートしている。		